

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4079600542		
法人名	有限会社 添田商産		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡川崎町大字川崎112番地 (電話) 0947-72-7950		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月11日	評価確定日	平成21年12月24日

【情報提供票より】(平成21年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建て		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水・光熱費 10,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900円	1ヶ月 25,000 円

(4) 利用者の概要 (10月31日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4			
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85.5 歳	最低 77 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富士見ヶ丘医院・社会保険田川病院・川崎町立病院・田中整形外科・井手口歯科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商店街や住宅地を見渡せる高台にあるグループホーム「かがやき」は、地元出身の代表者が、地域の高齢者福祉や雇用促進等に少しでも力添えしたいという思いで設立されており、職員もその思いを共有し、チームワークを大切に、入居者の方々の自己決定による自立支援を基本姿勢としている。医療面でも関係機関の協力により、一人ひとりの状況に合わせた受診回数の調整等、本人本位の支援を行なっている。また、地域の方々との交流を深めると共に、行政との連携により、地域の高齢者に関しても、ホームとして出来る限りの支援を行うなど、高齢者支援を多面的に行っている。運営者と管理者・職員のチームワークにより、入居者の方々が「何を望まれているのか、できることは何か」という視点を大切に、日々のケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の課題として指摘のあった入居者一人ひとりの、出来る事、したい事を把握するといった取り組みや、地域との交流を更に深める事、研修記録を残し伝達講習に力を入れる事などに取り組んでいる。また通院回数の見直しを医師と相談し、適確な回数とした。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	指摘のあった事項を具体的に改善する事で、見えてきたことややるべき事が明確になった。管理者として自己評価は始めてのことであり、職員の意見やアドバイスを参考に作成されている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、定期的に開催されている。行事報告や火災訓練、人権の勉強会やインフルエンザ対策等の議題にて、多くの活発な意見や助言があり、施設運営に反映されている。また、委員の方々から地域住民の生活支援についての相談もあり、時には行政も交えた地域会議に発展する事もある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	苦情相談窓口については、入居時に説明と同意を得ている。御意見箱も玄関に設置している。運営推進会議には家族代表の出席があり、意見や要望は真摯に受け止め、職員との意見交換や議題として検討するなど、大切に、前向きに対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、川崎便りや回覧版が届けられる。近隣の保育園児から、踊りや歌のプレゼントが届けられることもあり、また地域行事には必ず案内をしていただけるようになった。代表者は地元出身でもあり、地域の方々との親交も深く、地域行事や地域活動(清掃・廃品回収等)に参加し、地域の一員としての交流を深めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスとしての意義をふまえた運営理念が「私の力、皆の力、合わせて目指そう地域との連携。」と示している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	「地域の皆様と明るく楽しく助け合い、今日も一日笑顔でかがやきましょう」と、わかりやすい言葉に集約された理念をリビングに掲示し、毎朝入居者の方々と共に唱和する事で一日が始まる。家庭的な環境と、地域との交流を大切にしたケアに取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入し、「川崎便り」や回覧版が届けられる。近隣の保育園児から、踊りや歌のプレゼントが届けられることもあり、また地域行事には必ず案内をしていただけるようになった。代表者は地元出身でもあり、地域の方々との親交も深く、地域行事や地域活動(清掃・廃品回収等)に参加し、地域の一員としての交流を深めている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	昨年度の課題として指摘のあった入居者一人ひとりの、出来る事、したい事を把握するといった取り組みや、地域との交流を更に深める事、研修記録を残し伝達講習に力を入れる事などに取り組んでいる。また通院回数の見直しを医師と相談し、適確な回数とした。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、定期的に行われている。行事報告や火災訓練、人権の勉強会やインフルエンザ対策等の議題にて、多くの活発な意見や助言があり、施設運営に反映されている。また、委員の方々から地域住民の生活支援についての相談もあり、時には行政も交えた地域会議に発展する事もある。		充実した開催内容に対して、議事録の整備が望まれる。提案事項や貴重な意見・アイデアを記録に残し、一つ一つ積み重ねながら、職員への伝達や事例として残していく事に期待したい。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム かがやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	地域の高齢者や認知症の方々への支援について、運営者は行政担当者と常に相談や提案等、密接に連携を図っている。また行政との連携により、人権学習をホームにて行なっている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	定期的に権利擁護に関する制度の研修会に参加しており、またパンフレット等、資料を整備し、必要となった場合には活用に向けての支援が行えるよう、体制を整えている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月の定期的な「かがやき通信」で、ホームでの生活状況を報告している。健康面については本年度より「通院記録」に医師のコメントや検査データ・薬等を記入し報告している。家族の面会も多く、緊急事以外は面会時の報告を優先としている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	苦情相談窓口については、入居時に説明と同意を得ている。御意見箱も玄関に設置している。運営推進会議には家族代表の出席があり、意見や要望は真摯に受け止め、職員との意見交換や議題として検討するなど、大切に、前向きに対応している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	家庭の事情や出産等、離職については職員個々の事情があり、避けられない場合もあるが、入居者の方々へのダメージは最小限となるよう、勤務調整や日中の職員を固定化するなど働きやすい環境づくりに努めている。また、人員は余裕を持って採用している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用については、性別・年齢・経験の有無などの制限はない。正職員としての採用を多くし、年齢の幅・前職も多様であり、それぞれの個性を活かして、明るく楽しい職場環境づくりに努めており、チームワークで働けるよう取り組んでいる。勤務調整も要望に応じており、また親睦会等を開催している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム かがやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	運営理念にも「尊厳ある生活」の重視を謳っており、実践に向けて取り組んでいる。行政主催の学習や研修会には、積極的に参加しており、本年度は人権学習を町の協力にてホーム内で開催し、職員全員が参加している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員教育にはホームとして積極的に取り組んでいる。外部研修等は習熟度に応じて公平に参加出来るよう、費用面での支援もしている。資格取得についても勤務調整など協力している。事務所内に職員の資格証明書を掲示しており、自己啓発や学習意欲の向上につながっている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム連絡協議会に加入し、研修や情報を共有する機会を得ている。町内のグループホームとの交流が、徐々に始まっており、互いの運営や支援方法についても気軽に話せるようになり、交流の必要性が認識している。その中で、音楽療法の見学を行い、レクレーションの参考にしている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	相談があれば行政機関とも連携を図り、本人・家族と話し合い、安心や信頼が持てるように努力している。まずは本人・家族に納得してもらえるよう、食事会やイベントに参加して頂いたり、体験入所も積極的に行なっている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	家庭的な雰囲気の中、趣味やレクレーション・行事を通じて、年長者である入居者の方々から学ぶ事も多い。センター方式等の活用により、入居者一人ひとりの理解を深める事ができるようになり、共感をもって接する事が多くなった。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

## グループホーム かがやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居時に本人・家族との面談を重ね、生活歴や経歴、既往症を把握するようにしている。また入居後にも、2ヶ月毎にアセスメント情報を更新しており、センター方式の活用による、思いや希望の把握に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	面接時のアセスメントや見学時の状況などを参考にし、本人・家族の意向や希望、安心と安全を踏まえた計画を作成し、説明と同意を得ている。計画の主語が本人本位であり、すぐに行動ができる文章となっている。毎日の経過記録には短期目標が記載されており、計画がケアに活かせるように工夫されている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	毎月モニタリングを行っている。毎日の連絡帳から情報をとり根拠のあるケアの見直しを行なっている。定期の担当者会議を開き介護計画見直しにつなげると共に、必要時には臨機応変にミニ会議を行なっている。また状況変化がない場合も、本人・家族の意向を確認し、いつでも柔軟な支援が出来る事を基本姿勢としている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	緊急入院時の対応として、必要物品を準備したり、入院時には面会や衣類の洗濯など支援している。地域の方々も高齢者が多く、施設としては公的機関や民生委員の方との連携により、出来る範囲の支援を行っている。家族の宿泊や食事にも柔軟に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	今年度から診察毎にあらかじめ受診依頼書を作成し、FAXで送付したり、バイタルサイン表と共に持参している。食事の摂取の仕方や服薬の指導を、細かく受ける事が出来るようになり、結果として診察回数も減り、内服薬が少なくなってきた。医療連携の必要性を認識し、看護師の配置を検討中である。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

## グループホーム かがやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	本人・家族との話し合いを重ね、主治医と相談しながら希望や意向に沿えるように取り組んでいる。家族の希望に寄り添う形で看取りも経験しており、今後もできる限りの支援を行っていきたいと考えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	家庭的な雰囲気の中で、温かく親しみのある会話を心掛けていた。人権問題の学習会では、若い職員への働きかけを行い、迷ったり、わからないことは必ず先輩に聞いて行動するよう指導されていた。個人の記録は大事に管理されている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日の流れはあるが、本人のペースにあわせている。居室でゆっくりする方・読書する方・ちぎり絵を共同で作成するなど、自己決定を大切にしながら、それぞれの過ごし方を支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者の方々の嗜好やアレルギー等を把握して献立が作成されている。食材は施設長宅の米や野菜を利用したり、近所からの差し入れをいただくこともある。食事作りや準備、後片付け等を、職員と楽しみながら行えるよう支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	一日中いつでも入浴可能である。概ね週3回は入浴支援をしており、清潔の保持や皮膚の保湿に努めている。安全面の配慮については職員の見守りを徹底し、入浴介助は必ず2人で行っている。また夏季の散歩・園芸活動の後のシャワー浴等、その都度対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

## グループホーム かがやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	生活歴や日々の暮らしぶりから、個々の役割や楽しみを見出し、職員は見守りや支援方法を工夫し、個別的な生活を見守っている。当月は“川崎町の催し”に出品する、きり絵作品の作成に全員で取り組んでいる。「何も興味を持たれない方」「一人が好きの方」等、職員の思い込みをしないように注意されていた。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	気候や希望により、周辺への散歩は一日の日課として行っている。近所の方との挨拶や声かけや、また季節の変化を肌で感じる事で情緒面の刺激になっている。商店街への買い物や図書館等、ドライブを兼ねて希望に沿って支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中、居室・玄関は施錠せずオープンにしている。入居者が外出する場合には、必ず付き添い安全面への配慮をしている。夕方になると入居者の方々が率先して戸締り施錠を行い、職員がその後の確認を行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	避難訓練等は年2回計画書に基づき定期的に行い、消防署の指導・助言を頂いている。消防署にも近く、緊急連絡網に地域の区長や近隣の方々も協力を頂いている。施設が平屋で敷地面積も広く、災害時避難は他への移動ではなく施設駐車場と指定されている。また、「セコム」と契約し安全面や災害対策を行っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	1日の食事・水分摂取量を把握し記録している。特に水分量は各時間帯に記入され、集計されている。栄養バランスは献立作成時に調理専門の職員と確認点検を行っている。状態に応じて食事形態等に個別の対応が行なわれている。必要に応じて医師の指導を受けながら、定期受診時には栄養面でのデータチェックも行なわれている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム かがやき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	玄関周りやリビングは四季に応じて草花が育てられ、さりげなく季節感を取り入れている。リビングから通じるベランダにはベンチやテーブルが置かれ、プライベートな時間も楽しめる。共用空間は常に清潔面・換気・室温調節を心掛けており、食堂の椅子やテーブルは入居者の方々の身体状況にあわせて高さを確保し、動きが自由で安楽に過ごせるよう配慮している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室入口には、小さな絵画と写真入りの名札、好みの暖簾が掛けられており、色彩的にも楽しい雰囲気がある。室内はロッカーと腰高の箆笥が揃えてあり、衣類等の整理がしやすい。すっきりとした居室や趣味のものに囲まれている居室、本・時計・仏壇等が持ち込まれている部屋など、これまでの暮らしを窺い知ることができるような、個性ある居室づくりとなっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			